

# あぜみち

No.9  
平成30年1月1日

●▲ 営農センター TEL 782-1171

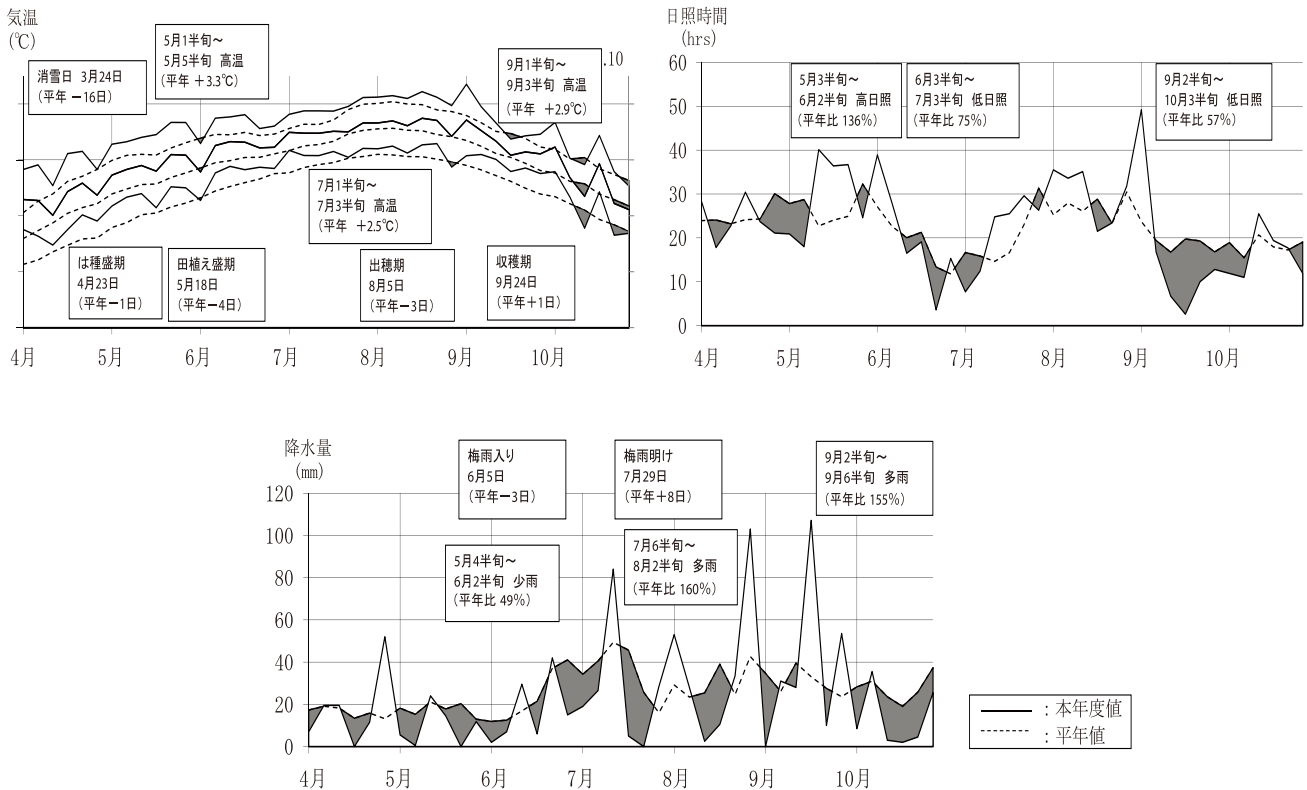
## 稲作技術情報

### 1. 平成29年の稲作状況について

平成 29 年産米の新潟県の作況指数は 96 (526kg/10a)、**魚沼地域は 97 (510 kg/10a)**で「やや不良」となりました。また、当JA管内の品質では、1等米比率 77%となり、昨年から大きく下落しました。

本年は、6月の低温、8月の日照不足から、茎質の低下、登熟不良を引き起こしたほか、9月以降の降雨により登熟が遅れ、一部では刈り遅れや刈り取り不能となる圃場が発生しました。

平成29年度 稲作栽培期間気象グラフ (観測地点：南魚沼城内開発センター)



## 2.平成29年生育経過

	塩沢地区	湯沢地区
播種最盛期	4月23日	
田植え最盛期	5月14日	5月22日
最高分けつ期	7月3日	7月10日
出穂期	8月7日	8月11日
収穫期	9月23日	10月7日

### ○播種期～育苗期

・消雪は平年並となり、春作業は順調に進んだ。5月10日以降の田植えの理解定着により、**育苗作業は平年並みの推移**となった。育苗期間は比較的好天に恵まれ、若干の徒長苗もみられたが、**苗ヤケ等の障害も少なく、概ね良質苗が確保**された。

### ○田植え期～最高分けつ期

・**田植え期は平年並みとなった**。田植え後の活着はおおむね良好であったが、**5月下旬以降に田植えをした苗**については、低温の影響もあり茎数の確保に影響が見られ、6月中旬までの低温及び日照不足の影響から**茎質的には不良**となり、結果的に**一穂もみ数の平年比減につながった**ものと思われる。また、適期中干しを啓蒙したが、前述のこと等から結果的には遅めの実施となり、有効茎歩合の低下となった。(72%)

### ○幼穂形成期～出穂期～収穫期

・**幼穂形成期頃の生育は、茎数やや多・草丈平年並み・葉色平年並み**となった。6月中旬から下旬にかけての低温・日照不足により、幼穂形成期はやや遅れ気味となり、出穂期についても、平年並みからやや遅めとなった。田植えの早い圃場については、1回目の穂肥をある程度積極的に実施された圃場もあったが、田植えの遅い圃場及び2回目については遅め・控えめの施用となった。

当初は、猛暑の予想から高温対策が必要と思われたが、低温基調及び日照不足から登熟は遅れ、降雨も相まって、**登熟歩合は平年を大きく下回り、一部高標高地では冷害気味となり、著しい登熟障害となった圃場もあった**。また、台風18号による倒伏も品質低下の要因となった

### 3.品質低下要因と次年度対策

本年度、特に問題となった格落ち要因は青未熟粒やその他未熟粒、白未熟粒であり、原因分析と対策が求められます。

#### 主な格落ち要因

##### ①青未熟粒 65%

**特徴**

粒の表面に葉緑素が残り、緑色の粒になる。

**発生要因**

- 早刈り、生育に差がある部分(水口)などの刈り取りで多くなる。
- 早期で倒伏を招いた場合に多発生する。



##### ②除青未熟粒 17%

**特徴**

青未熟粒を除く、玄米の厚みが無く扁平なものや、幅が細い、表面の縦溝が深いなどの充実不足の粒。

**発生要因**

- 登熟期の水不足、地力の低下(後期栄養不足)により発生が増える。
- 茎数や籾数が多く、一粒一粒への養分供給が不十分な場合に発生が増える。
- 異常高温や強風フェーンなどで多発生を招く。



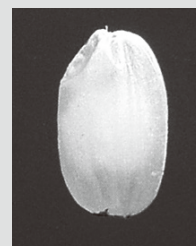
##### ③心白粒(未熟粒) 12%

**特徴**

粒の中心が白く濁って見えるものをいう。デンプンとデンプンの間に隙間ができており、光が乱反射するため白く濁って見える。

**発生要因**

- 登熟期間の平均気温が高い場合、発生が増える傾向にある。
- 茎数や籾数が多く、一粒一粒への養分供給が不十分な場合に発生が増える。
- 出穂期の葉色が薄い場合に発生可能性が上がる。



★1月の1日訪問日発送予定の「お米の通信簿」を参考に、今年の状況を振り返って次年度へ向けた対策を検討しましょう。

## <次年度対策>

### ○土づくり資材を活用した土壌改良、適正生育の促進

地力がもたず登熟不足となった圃場や、初期倒伏を招いた圃場が散見されました。土づくり資材は継続的な施用により生育を安定させましょう。

## JAしおざわ おすすめ土づくり資材

※表示価格は1袋あたりの税込価格です。

### ○ケイ酸を多く含む資材

#### ★スーパーシリカプレミアム 20kg入り

**特徴** 高溶出ケイ酸の割合が高く、少量でもケイ酸の効果が期待できます。比較的安価であるため、低コスト土づくり資材として特におすすめです。  
(アルカリ40、ケイ酸30、苦土2)

特におすすめ

10a当り60~80kg

1,263円 (税込)



### ○ごま葉枯れ病対策に 新土づくり資材

#### ★みつパワー 20kg入り

**特徴** ケイ酸、苦土による土づくり効果のほか、慢性的に不足しがちなマンガンを含むため、ごま葉枯れ対策に役立ちます。  
(マンガン10.0、ケイ酸25.1、苦土2.7、カルシウム21.7、鉄1.7)

10a当り60~120kg(3~6袋)

1,015円 (税込)



## 肥料散布機(ブロードキャスター)の貸出について

土づくり資材投入の一助として、肥料散布機「ブロードキャスター」の貸出を実施いたします。ぜひご利用をお願いいたします。

### 内 容

装着可能トラクター 20~50馬力

貸出料金 (1日当たり・消費税別)

貸出料 13,000円 (洗浄料等含む)

運搬費 5,000円

### 申込方法

利用希望の5日前までに「利用申込書」に必要事項をご記入のうえ、申してください。「利用申込書」は農機センターに設置してあります。

※ご不明の点がございましたら、**営農センター ☎782-1171** までお問い合わせください。